





# ART × SCIENCE



「アートとサイエンスが共存する空間を」  
— 学習机が均等に置かれた講義室にバロック期の絵画が並ぶ。  
熊本市中央区大江本町に日本で最古の歴史を誇る薬学部がある。熊本大学薬学部は創立約140年という長い歴史の中で、日本の医療を支える優秀な科学者を輩出し続けている。広大なキャンパス内には約2000種類の植物を栽培する薬草園があり、世界中の薬木（やくぼく）が植えられた豊かな自然の中に「アートとサイエンスが共存する」一風変わった空間がある。

熊本大学薬学部の薬草園内施設のエントランス。絵画や立体作品と共に故・島田俊郎氏の肖像が飾られている

# 時を超えた芸術と 科学の巡り会い

— 薬学とフェルメールが紡ぐ、  
多様性の教え —







甲斐教授らが取り組む中国最古の医学書「黄帝内経」の解説と数学との融合



フェルメール作品で最も有名である「真珠の耳飾りの少女(1665年)」。オランダに所蔵されている本物よりも描いた当時の色合いが再現されている

世界中から集めた薬草などが保管されている薬草ミュージアム



上／熊本市中央区大江本町にある熊本大学薬学部薬草園内施設 下／研究に使用する薬草など約2000種類の植物が栽培されている

「フェルメールは裕福な家族に恵まれ、高価な絵具（ラピスラズリ）を使い、好きな絵を好きに描くことができました。そんな彼は『愛』にまつわる独自の表現を数多く用いて、日常の恋愛を自由自在に描きました。このギャラリーでは研究室を一歩出るとすぐにでも1650年頃のオランダの日常を覗き見ることができます。」

「環境の多様性に目を向ける」  
甲斐教授は熊本大学薬学部を卒業後、研究員としてエーザイ（株）に所属。その後、熊本大学に戻り、2015年薬学部長、21年副学長を歴任。現在、力を入れる研究テーマの一つが約2500年前の中国最古の医学書とされ、鍼灸治療や漢方医学の礎となった「黄

帝内経（こうていだいけい）」を読み解くというもの。中でも斬新なのが、当時の文献を解説しつつ、その内容を現代の医学に当てはめているという点だ。「人体とは何か、そして病気とは何か。その根源を成す自然環境について25世紀前の中国では私たちの予想を遥かに上回る高度な学問にたどり着いていた。この学問は後に有名な数学者たちが発見した公式にことごとく当てはまるんです。中国の歴史に新しい光を当てるきっかけになりますよ。甲斐教授と他の科学者たちとの本当の意味での異分野融合研究での成果であり、近い将来、論文として公表されていくという。一見、フェルメールのギャラリーとは無関係にも思えるが、実はこのような研究にもアートとサイ

触れられるように」という島田氏の思いから熊本大学薬学部への寄贈が決まった。このフェルメールの絵画は単なる複製画ではない。長い時間とともに色合いが変化した絵画を、最新のデジタルリマスタリング技術を用いて当時の色調とテクスチャーを原寸大で、鮮やかに再創造（リ・クリエイト）された、より精緻で高品質な絵画である。島田氏はフェルメールの全37のリ・クリエイト作品を購入。絵画を彩る額縁は、世界の美術館で展示されているものを、細かな傷まで忠実に再現している。



1階研究室前の廊下。甲斐教授が独自のライティング（照明）を施した

「芸術作品は人によって見え方が大きく異なります。それはサイエンスにおいても同様です。そしてアートとサイエンスは、見えない世界を見える化するという共通点を持ち合わせているんです。そう語るのは熊本大学薬学部の甲斐広文名誉教授。教育や研究の傍らで、フェルメールをはじめとする約70点の芸術作品が並ぶギャラリーを管理している。



18点の絵画が立ち並び1階講義室



**Hirofumi Kai**

1960年生まれ64歳。宮崎県椎葉村出身。熊本大学薬学部卒、同大学院薬学研究科修士、薬学博士。同大学院薬学教育部長、薬学部長、副学長など歴任。現在、熊大や東海大の客員教授、創業ベンチャーの代表も務める。座右の銘は「運を運びなければ足を運べ」